

平成 31 年度

奈良県立病院機構看護専門学校

公募推薦入学試験 問題

国 語 総 合

注意事項

- 1 試験監督の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 2 試験問題は、問題 1 から問題 21 までです。試験時間は、50 分です。
- 3 問題冊子、解答用紙には必ず受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄には正確にマークしてください。
- 4 解答は、1～5 の選択肢から正解を一つ選び、解答用紙の該当する番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
- 5 マークは、解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように丁寧に塗りつぶしてください。
- 6 試験中に問題の落丁・乱丁に気づいた場合は、手を挙げて試験監督に知らせてください。
- 7 問題冊子と解答用紙は回収します。室外への持ち出しは禁止します。

受験番号		氏 名	
------	--	-----	--

第1問 次の各問いに答えよ。

問題1 次の傍線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選べ。

(1) 1 土地を讓渡(じょうど)する。

2 嫌悪(けんあく)の情を抱く。

3 囑託(いたく)社員として働く。

4 将来のことを憂慮(ゆうりよ)する。

5 作品が佳作(けっさく)に選ばれる。

(2) 1 躍起(やつき)になって弁解する。

2 喪心(かいしん)した表情で立ち尽くす。

3 仲間を軽侮(けいべつ)の目で見てはならない。

4 疾病(しつびよう)に備えて保険に加入する。

5 父は身を粉(こな)にして働いている。

問題2 次の傍線部の漢字が正しいものを一つずつ選べ。

(1) 1 課題解決に向けてシンリョク(尽力)する。

2 議会でハモン(波問)が広がる。

3 敵のモウコウ(猛抗)を受ける。

4 論文のヨウシ(用旨)を説明する。

5 重たい家具をウンパン(運般)する。

(2) 1 ジヒ(慈悲)の心を育む。

2 年齢をサシヨウ(詐証)する。

3 何のヘンテツ(偏哲)もない毎日を送る。

4 思いがけない知らせにシヨウゲキ(衡撃)を受ける。

5 国旗をケイヨウ(掲揚)する。

問題3 次の傍線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選べ。

(1) 糖分の過ジヨウな摂取は健康に悪影響を及ぼす。

- 1 皆の団結で相ジヨウ効果が生まれる。
- 2 火山の周りの土ジヨウを調査する。
- 3 会社の決算でジヨウ余金が生じる。
- 4 実験のためにジヨウ留水を用意する。
- 5 彼は遅刻のジヨウ習犯である。

(2) 野菜の価格が高トウする。

- 1 ピアノの演奏にトウ酔する。
- 2 市役所で戸籍トウ本を取得する。
- 3 沸トウした湯をカップに注ぐ。
- 4 客が店に殺トウする。
- 5 北アルプスをトウ破する。

問題4 次の傍線部の漢字が正しいものを一つずつ選べ。

(1) 1 真珠の養植を行う。

- 2 相意工夫が随所にみられる。
- 3 失言により大臣が更迭される。
- 4 デフレが漫性化する。

(2) 5 街が犯罪の恩床と化す。

- 1 脈絡のない話に困惑する。
- 2 無駄足を踏み時間を漏費する。
- 3 他のチームへの移席を決める。
- 4 壊してしまった商品を弁賞する。
- 5 街の中に壯巖な大聖堂がそびえ立つ。

問題5 次の慣用語、四字熟語または故事成語の意味として正しいものを一つずつ選べ。

(1) 舌を巻く。

- 1 あまりにひどいので、黙って見過ごすことができないこと。
- 2 相手のことを出し抜いて、あつと言わせること。
- 3 きざで軽薄な言動に接して、不快になるたとえ。
- 4 大したことはないと決めて掛かって、軽く見ること。
- 5 たいへん優れているので、ひどく驚き、また、感心すること。

(2) 公明正大

- 1 些細なことを、大げさに誇張していうこと。
- 2 量や数が多いのに、非常に安い値段でしか売れないこと。
- 3 気持ちが高まり、自信たっぷりに、誇らしげにふるまうさま。
- 4 公平で私心がなく、隠し事をせず、堂々としているさま。
- 5 こじれた物事をあっさりで見事に処理、解決すること。

(3) 馬耳東風

- 1 人前であるにもかかわらず、自分勝手な振舞いをする事。
- 2 他人の意見や批評をまったく気にとめず聞き流すこと。
- 3 危険が差し迫っていて、生き残れるか滅びるか瀬戸際のこと。
- 4 世間の粋や常識にとらわれず、自分のしたいように行動すること。
- 5 度胸がすわっていて、敵を敵とも思わないこと。

(4) 舟に刻みて剣を求む。

- 1 一つ望みがかなえられると、次の望みがすぐに起こってくるというたとえ。
- 2 いったんやってしまったことはもう取り返しがつかないというたとえ。
- 3 時勢が移り変わること気づかず、古いしきたりにとらわれている愚かさのたとえ。
- 4 理屈に合わないことや、明らかな誤りをむりに押し通そうとするたとえ。
- 5 非力な者が、身のほどもかえりみずに強敵に立ち向かい、無謀な抵抗を試みることのたとえ。

問題6 次の意味に該当する慣用句または四字熟語として正しいものを一つずつ選べ。

(1) 援助や努力が少なすぎて、まったく役に立たないことのとたとえ。

- 1 のれんに腕押し。
- 2 魚心あれば水心。
- 3 河童かっぱの川流れ。
- 4 焼け石に水。
- 5 身から出た錆さび。

(2) 両方とも手に入れようとして、ともに取り損なうこと。

- 1 虻蜂取らずあぶ。
- 2 手に余る。
- 3 身につまされる。
- 4 木に竹を接ぐ。
- 5 二の足を踏む。

(3) 目先の違いにとらわれて、結局は同じ結果になることに気づかないこと。

- 1 付和雷同
- 2 一日千秋
- 3 一朝一夕
- 4 同工異曲
- 5 朝三暮四

問題7 「インタラクティブ」の意味として正しいものを一つ選べ。

- 1 双方向の
- 2 誘因
- 3 効果的
- 4 活動的
- 5 創造的

問題8 「相反する二つの事の板ばさみになって、どちらとも決めかねる状態」を意味する外来語として正しいものを一つ選べ。

- 1 アジエンダ
- 2 ナーバス
- 3 ジレンマ
- 4 パラレル
- 5 ユビキタス

問題9 次のうち「粗雑」と同じ意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- 1 雑多
- 2 杜撰ずさん
- 3 煩雑
- 4 粗忽そこつ
- 5 曖昧あいまい

問題10 次のうち「栄転」と反対の意味を持つ語句として正しいものを一つ選べ。

- 1 敗走
- 2 衰退
- 3 挫折
- 4 左遷
- 5 着任

問題11 次のうち傍線部の言葉の使い方が正しいものを一つ選べ。

- 1 リーダーとして彼に白羽の矢が当たった。
- 2 油断していると敵に足をすくわれる。
- 3 彼をだましたように目覚めが悪い。
- 4 解決のしようがなく、匙を飛ばした。
- 5 彼の非常識な言動に眉をしかめた。

第2問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

哲学は先から先へと連続した思想の一系統であるが、多くの哲学者はまず議論の出発点となるべき基礎を探り求め、それを土台としてその上に理屈を築き上げようとつとめる。河に鉄橋をかけるときには、橋杭をだんだん深くまで打ち込み、もはや決して下るところのない堅固な岩に達すると、それで安心して、杭の上に橋桁をおいたり、欄干をつけたりするが、これはもともと千万なこと、土台の定まらぬ間は、もちろん重い物をその上に積むことはできぬ。砂の上に楼閣の築かれぬはだれも知っているとおりである。哲学者もこれに見習うたものか、まず押しもたたいでも決して揺らぐことのないようなある物を求め、これを考えの基礎に用いようとするが、たいがい物は疑えば疑えるもので、ありと思えばあり、ないと思えばないとも言えるゆえ、決して疑うことのできぬというような物をしいて求めると、結局は「デカルトのごとくに「われは考える、ゆえにわれはある」というようなところに達する。十人十色で物の考え方は一人一人に違うても、何か動かぬ基礎の上に考えの一系統を組み立てようと欲することはほとんどすべての哲学者に共通の心理であるようにみえる。ところがわれらの考えによるとこれが（2）である。A

物は何でも手近にあるほど確かに知ることができる。たとえば物の大きさを測るにしても、机や本箱ならば物差しをじかに当てることのできるゆえ、その物差しを示す程度においてはすこぶる正確に測れる。すなわち幾人が測っても、何度測っても結果はまず同一であつて、同じ机が二尺五寸（注1）になつたり二尺六寸になつたりすることは決してない。しかるに道路の長さを測る場合には、長い物差しを一度に当てて測るわけにはゆかぬゆえ、比較的はなはだ短い物差しで一小部分ずつを継ぎ継ぎに測り、のちにこれを合計して全部の長さを出さねばならぬが、わずかにこれだけの手数がかかつてもはやその結果はやや正確でなくなり、二度測れば二つ、三度測れば三つの相異なつた長さが出るゆえ、結局はこれを平均した長さを採用しておくよりいたし方はない。物差しをじかに当てずに他の方法によつて測量する場合には、（3）、正確の程度がさらに減ずる。富士の山の高さが海面上一万何千何尺と何寸何分というような計算が出て、最後の三桁か四桁は実は何の意味もない。B

小さなほうもこれと同様で、じかに物差しの当てられぬ場合には間接の測定法によらねばならぬが、方法が間接であればあるだけ、結果は不正確にならざるをえない。最高度の顕微鏡でなければ見えぬような微細なバクテリアの長さが $0 \cdot 00035$ ミリメートルあるとか、顆粒（カクリツ）の直径が $0 \cdot 0008$ ミリメートルあるとか書いてあるが、実際にこれを測るにあつては、実物からきた光線も、マイクロメートルからくる光線もいくつものガラスを通つて屈折し、いくつもの鏡に当たつて反射してくることゆえ、どこに少しの誤りがあつてもじきに結果が狂うて、決して正確なことが知られぬわけである。まして幾回も数字を寄せたり、引いたり、掛けたり、割つたりして、ようやく出てきた計算の結果である場合には、その正確の程度は大いに怪しいものと考へねばならぬ。物の目方のごときもそのとおりで、牛肉を一斤（注2）とか、パンを半斤とかいうときにはまず誤りはないが、地球の重さが何千何百万トンなどという計算になると推測や仮定を幾段もくぐつてきているゆえ、どのくらいまで信じてよろしいやらほとんど見当がつかぬ。C

その他、空間においても、時間においても、また原因結果の連鎖に關しても、最も正確に知ることのできるのはいつとも自身に最も近く、かつ取扱いに最も手ごろな部分だけに限られる。目の前で見えるところにくらべると、隠れたところはよく分からず、遠くで見えぬところはさらによく分からぬ。町をへだて国をへだてれば、遠ざかるだけ、知りうるものが正確でなくなる。實際行なわれていることはただひとつとおりよりないことが明らか

であるにかかわらず、その報道は実に区々^{まちまち}である。何某が過激派のために捕えられたと言うかと思えば、すでに国境を越えて某所にかくれていると説く者がある。某所のストライキが無事に落着いたと報ずる者があれば、また一説には、なおますます盛んで、いつ治まるか見込みが立たぬと言うている。同一の人間が同時に二カ所にいることはできず、同一のストライキが同時におさまるかつ盛んになることは不可能であるゆえ、いずれか一方は誤りに違いないが、距離が遠いとこれを鑑別すべき道がない。時間についてもこれと同じく、昨日や今日のことならば真偽を見分ける途もあるが、古い昔のことになると、あったことやらなかったことやら容易に分からぬ。長い間だれも確かに生きていたと信じていた有名な人物が歴史家の研究の結果、実はいなかった人であると抹殺せられることさえしばしばある。窓の下を呼んで歩く号外売りの言うことが区々であるのを聞いて、今日起こった事件の報知でさえ、かくさまざまである以上は、昔の話などはどうてい当てになるものでないと言うて、手に持っていた歴史の書物を破り捨てた人があるというが、現在からへだたればへだたるほどその時に關する知識が不正確であることはやむをえない。すでにすんだ過去でさえそのとおりであるから、これからのちの未來に關して予想的知識の不確實であるべきはもとよりいうにおよばぬ。㉑

㉒ かくのごとく人間の有する知識なるものは、自身に接近したところがいちばん確かであつて、自身から遠ざかるにしたがいだんだんと不正確になり、一定の距離を超えれば全く皆無となる。そのありさまはあたかも暗夜に提燈^{ちていとう}を下げて立っているに異ならぬ。光は発光体から遠ざかるにしたがい、距離の自乗に反比例して力が減ずるが、知識の確實さの程度もおそらくこれと同じか、あるいはそれよりもなおいっそうはなほだしい割合で、自身から遠ざかるだけ減じてゆくごとくに思われる。特に(7)、先から先へと考えを進めてゆく場合には、鎖の輪から輪に移りゆくたびごとに誤りの滑り入るべき隙があるゆえ、いくつかの輪を手繰っている間にはずいぶん多くの誤りが混ざるを避けられぬ。仮に推理の一段ごとに一割の誤りがあり込むと想像しても、五段目には約半分の誤りを含むことになるが、たいがいの場合には誤りの量はなかなか一割くらいではすまぬゆえ、二段三段と理を推している、当人の知らぬ間にほとんど全部が誤りとなり終わるおそれがある。さてかように考えながら従来の哲学書を読んでみると、いずれも出発点の選び方を誤っているように思われる。議論の立て方は人びとによってまったく違ふが、いずれの哲学者も推理によって先から先へと考え込み、かくしてようやく到着しえたところを基礎として、その上に一組の議論の系統を築き上げようとしている。しかるにわれらのごとく、人間の知識なるものはあたかも闇夜の提燈と同じく、ただ近いところが見えるだけで、遠いところほど光が怪しくなると考えるものから見ると、これは全く順序を転倒したやり方で、一番不確實なところに土台をおいて、㉓ それによつて万事を了解しつくそうと苦心しているのである。㉔

(丘浅次郎「我らの哲学」)

(注) 1…尺、寸—長さを表す単位。一尺は約三〇・三センチ。一寸は一尺の一〇分の一。 2…斤—重量を表す単位。約六〇〇グラム。また、食パンの塊を数える単位でもある。

問題 12 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中の(A)～(E)のうちから一つ選べ。

ガリバー探険物語にある学者の国のごとくに仕立て屋が六分儀^(注)や水準器を持ち出し、角度から割り出して仮縫いの寸法を取るようではいかなる洋服がでか上がるか分からぬ。

(注) 六分儀 — 天体上の二点間または二物体間の角度を測る携帯用の器械。水準器 — 物の面が水平かどうかを測定する道具。

- 1 (A) 2 (B) 3 (C) 4 (D) 5 (E)

問題 13 傍線部(1)「デカルトのごとくに「われは考える、ゆえにわれはある」というようなところに達する」としている理由として、正しいものを一つ選べ。

- 1 ほとんどすべての哲学者がデカルトの思想を基礎にしていることから、多数派に従えば思想家として間違いがないため。
- 2 他人の考え方を疑ってばかりでは自らの理屈を築き上げることがでないため、ある程度妥協する必要があるため。
- 3 歴史上、既に様々な考えを持つ哲学者が存在するため、これから新たな思想を生み出すことが非常に難しいため。
- 4 哲学は連続した思想の一系統であり、その基礎はデカルトが築いたように決して揺らがないことが理想的であるため。
- 5 自ら考え抜いて理屈を築き上げることが重要であって、そこにこそ哲学者としての存在価値があると考えられるため。

問題 14 (2) に当てはまる語句として正しいものを一つ選べ。

- 1 多くの誤謬^{ごびやう}の源 2 知的探求心の根源 3 称賛を受ける所以
- 4 成功を収める秘訣 5 哲学における最大の要点

問題 15 (3) に当てはまる文として正しいものを一つ選べ。

- 1 目分量で計測することになるために
- 2 測量する人の数が減れば減るほど
- 3 手数を重ねることがさらに余計になるだけ
- 4 さらに長い時間がかかるために
- 5 物差しの読み方が変わるため

問題 16 傍線部(4)「その正確の程度は大いに怪しいものと考えねばならぬ」とあるが、筆者が物の測定に例えてここで言いたかったことは何か。正しいものを一つ選べ。

- 1 自分にとって大きすぎる課題や細かすぎる課題の解決に取り進む場合には、他人の助けを借りてでも、正確な理論構築を目指すべきである。
- 2 人は自分の能力の限界を知るべきであり、自分の能力を超えるような課題に直面した場合には、無理せず諦めるほうが良い。
- 3 物の測定と哲学とは、正確さを重視するところや、その過程において試行錯誤を要するところなど、多くの類似点がある。
- 4 他の哲学者の意見を取り入れたり、あるいはまねをすることは、哲学者として許されることではなく、避けるべきである。
- 5 推測や仮定を幾段もくぐって構築された理論は、誤りが入り込む機会も増えるため、信憑性しんぴやうせいに欠けると考えるべきである。

問題 17 傍線部(5)「取扱いに最も手ごころな部分」とは具体的にどのようなものを指すか。正しいものを一つ選べ。

- 1 知識を基にしたこれから起こりうる事柄。
- 2 長い間だれも信じている歴史的な出来事。
- 3 国内において、今現在起きているニュース。
- 4 直接見聞きでき、真偽の判断がつきやすい事柄。
- 5 誰の手も借りず、簡単に入手することができる情報。

問題 18 傍線部(6)「かくのごとく」が指す内容に該当しないものを一つ選べ。

- 1 富士の山の高さを計測しても、計測値にかなりの誤差が含まれるように。
- 2 哲学者が動かぬ基礎の上に考えの一系統を組み立てようと欲するように。
- 3 有名な人物が歴史家の研究の結果、実はいなかった人であると判明するように。
- 4 複数の伝聞の内容が矛盾しており、真偽の判断ができないことがあるように。
- 5 微細なバクテリアの長さを計測しても不正確な値しか求められないように。

問題 19 (7) に当てはまる文として正しいものを一つ選べ。

- 1 議論の立て方を考えずに
- 2 原因結果の鎖を手繰って
- 3 常識の鎖を断ち切って
- 4 手が届く輪の範囲を超え
- 5 出発点が定まらないまま

問題 20 傍線部 (8) 「それによって万事を了解しつくそうと苦心している」とあるが、それに対する筆者の考え方として正しいものを一つ選べ。

- 1 議論の基礎の部分が不確かである以上、その上に系統を築き上げることが困難と言わざるを得ない。
- 2 哲学者は無駄な苦労はやめ、改めて議論の出発点となるべき基礎を協力して探り求めるべきである。
- 3 議論の出発点となるべき動かぬ基礎を見出そうとする考え方自体に無理があり、改めるべきである。
- 4 哲学の理論構築は容易なことではなく、優秀な哲学者さえも苦労を余儀なくされるものである。
- 5 現在の哲学では、どんなに苦労しても闇夜の提燈と同じく、ただ近いところが見えるだけである。

問題 21 次のア～エについて、本文の内容と合致するものの組み合わせとして最も適当なものを一つ選べ。

- ア 哲学が常にその根底において、決して揺らぐことのない土台に支えられているとは限らない。
- イ デカルトは、我が国の哲学者に大きな影響を与え、今日においても目標とされる存在である。
- ウ 哲学者として議論するときには、自分の主張に不確かな推論を用いるようなことをしてはならない。
- エ 時間的にも空間的にも自分から遠ざかるほど、情報は不確かになり、信じられないことが起こりやすい。

- 1 アとイ
- 2 アとエ
- 3 イとウ
- 4 イとエ
- 5 ウとエ